

医療倫理と決断の悩ましさを考えよう

科目責任者 上 杉 奈 々
学年・学期 1 学年・3 学期

I. 前 文

本講義では、「終末期医療」をテーマに、目の前の患者にとっての最善とは？を考える臨床の医療倫理の問題の所在とその対応について考える。

医療においては、手探りながらも自律的に考え前に進むための決断をしていかなければならない。それは目の前の患者の福利のためである。しかし、それはなかなか一筋縄ではいかない。それはなぜだろうか？

まずはその問題の所在を明らかにし、この悩ましさから前に進む方法論としての倫理（ここでは臨床の医療倫理）について、わたしたちの社会の在り方・医療の在り方との関係性に注目しながら、目の前の患者のためにあれこれ悩み続けなければならない意味を考える時間としたい。そして、何より悩み考えることを楽しんでいただきたい。

II. 担当教員

講 師 上 杉 奈 々 医学教育学講座／URA センター研究倫理統括部門

III. 一般学習目標

- 1) 医療における倫理の重要性を学ぶ。
- 2) 患者及び家族の秘密を守り、医師の義務や医療倫理を遵守するとともに、患者の安全を最優先し、常に患者中心の立場に立つ。
- 3) 豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識を有し、人の命と健康を守る医師としての職責を自覚する。
- 4) 患者及び医療者にとって、良質で安全な医療を提供する意味を理解する。
- 5) 科学や社会の中で医学・医療だけでなく様々な情報を客観的・批判的に取捨選択して統合整理し、表現する基本的能力（知識、技能、態度・行動）・リベラルアーツを獲得する。

IV. 学修の到達目標

- 1) 医学・医療の歴史的な流れとその意味を概説できる。
- 2) 生命倫理の4原則（自律尊重・無危害・善行・正義）を説明できる。
- 3) 臨床倫理や生と死に関わる倫理的問題を概説できる。
- 4) 患者の自己決定権の意義を説明できる。
- 5) 医療と倫理に関する規範（倫理指針と刑事法）を説明できる。
- 6) 患者やその家族のもつ価値観や社会的背景が多様であり得ることを認識することができる。
- 7) 人の言動の意味をその人の人生史や社会関係の文脈の中で説明することができる。
- 8) 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	10	7	水	4	医療倫理とは？	上 杉 奈 々	2
2		14	水	4	あなたの決断, その理由は？	上 杉 奈 々	2

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
3	10	21	水	4	終末期の意思決定とその意味	上 杉 奈 々	2
4		28	水	4	安楽死・尊厳死	上 杉 奈 々	2
5	11	4	水	4	ALSと安楽死	上 杉 奈 々	2
6		11	水	4	終末期の医療倫理と法：ディベートによるまとめ①	上 杉 奈 々	2
7		18	水	4	終末期の医療倫理と法：ディベートによるまとめ②	上 杉 奈 々	2

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

以下のとおり成績評価する。（）内は評価の割合。

【講義時のディスカッション等への積極的な参加（20%）】 + 【事後学修としてのリフレクション（35%）】 + 【最終レポート（45%）】

最終レポートの評価の視点については、講義時に別途示す。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書は指定しない。参考図書は以下の他、適宜紹介する。

（参考図書）

赤林 朗 編「入門・医療倫理 I〔改訂版〕」（勁草書房：2017）

香川 知晶「命は誰のものか〔増補改訂版〕」（ディスカヴァー・トゥエンティワン：2021）

VIII. 質問への対応方法

原則として、講義時に対応する。

研究室に入室する場合は、事前にメールでアポイントメントを取るのが望ましい（詳細は講義時に指示する）。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事後学修の「リフレクション」については、毎回、匿名にてその内容を受講生全員で共有しフィードバックする。受講生同士の学びあいの機会の一つとして、しっかりと取り組まれない。

レポートについては、Moodleにおいて講評を掲載する。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（20分）：前回の講義時に浮き彫りになった問題点について自分なりに考えを形成してくること。

事後学習（20分）：講義の内容やディスカッションを振り返り，自身の考えを形成してMoodleよりリフレクションを提出すること。

XII. コアカリ記号・番号

PR-01-02-02, PR-02-02-01, PR-02-02-02, PR-03-01-01, PR-04-01-01, PR-04-01-01, PR-04-01-02

GE-01-02-01, GE-01-03-02, GE-03-06-05, GE-04-02-01

SO-04-04-01, SO-04-04-01, SO-04-05-01, SO-04-07-01, SO-06-01-02 LL-01-01-02